

麻しん・風しん混合（MR）ワクチンの 予防接種を受ける方へ

【苫小牧市健康支援課 ☎ 0144-32-6407】

1 各疾病について

【1】麻しん（はしか）

麻しんウイルスの感染によって起こります。感染力が強く、飛沫・接触だけでなく空気感染もあり、予防接種を受けないでいると多くの人がかかり、流行する可能性があります。主な症状としては、39°C～40°Cの高熱と発疹が見られるほか、気管支炎や肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症を引き起こすこともあり、医療が発達した先進国であっても、かかった人の約1,000人に1人が死亡する病気です。

【2】風しん

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。2～3週間の潜伏期間を経て、軽い風邪症状が出現し、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹、眼球結膜の充血などの症状がみられます。また、関節炎や血小板減少性紫斑病、脳炎などの合併症が引き起こされることもあるほか、妊娠初期の妊婦が風しんウイルスに感染すると、「先天性風しん症候群」と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障がい、発育発達遅延などの障がいを持ったお子さんが生まれる可能性が非常に高くなります。

2 麻しん・風しん混合（MR）ワクチンについて

麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作った生ワクチンです。いずれのワクチンも1回の接種で95%以上の子どもは免疫を得ることができますが、より確実にするため、2回目の接種（第2期）が行われています。1回目（1期）は、1歳になったらなるべく早く接種しましょう。

3 副反応について

アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応がまれに生じる可能性があります。なお、重篤な副反応の発生頻度は、0.0010%（※）です。 ※平成25年4月1日から令和5年9月30日までの数値

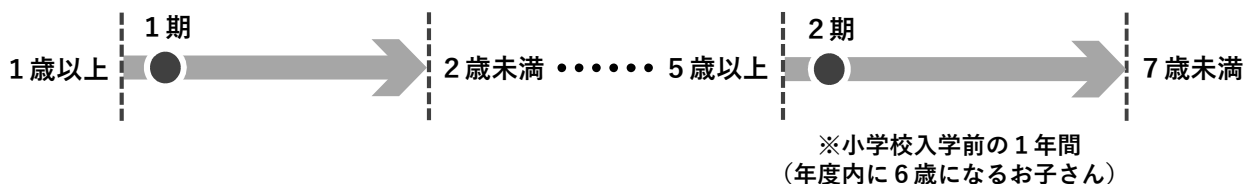
接種スケジュールについて

【定期予防接種として受けられる期間】

1期：生後12か月から生後24か月に至る（誕生日の前日）まで

2期：5歳以上7歳未満であって、小学校入学前の1年間（年長クラスのお子さん）

■ 1期として1回接種、2期として1回接種



《 予防接種救済制度について 》

万が一、定期予防接種が原因で健康被害が発生した場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。この救済制度の請求について、厚生労働省が予防接種との因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

裏面もお読み
ください。

予防接種を受ける前の注意事項

予防接種を受ける前のチェック項目

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性や効果及び副反応など理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- 『母子健康手帳』は持っていますか。
- 予診票の記入は済みましたか。
- 保護者の方が同伴できない場合には、代理人の方に委任状を渡しましたか。

次のような方は予防接種を受けられません

- 【1】 接種会場（医療機関）で測定した体温が37.5℃以上のお子さん
- 【2】 重とくな急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- 【3】 その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあるお子さん（※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。）
- 【4】 その他、医師が不適当な状態と判断した人

次のような方は予防接種を受ける前にお医者さんとよく相談してください

- 【1】 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けているお子さん
- 【2】 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られたお子さん
- 【3】 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
 - けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、その後起こったか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- 【4】 過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（例えば、赤ちゃんの頃、肛門の周りにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- 【5】 ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

予防接種を受けた後の注意事項

- 【1】 接種を受けたあと30分間程度は、接種した医療機関でお子さんの様子を観察するか、先生とすぐに連絡を取るようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- 【2】 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 【3】 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 【4】 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- 【5】 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- 【6】 異なるワクチンの予防接種を受けるまでに必要な間隔は次のとおりです。

異なるワクチンの接種間隔パターン

※以下のパターンは、あくまでも異なるワクチンを接種する場合の接種間隔です。
同一ワクチンの接種間隔は、各ワクチンごとに定められた接種間隔に従ってください。

